

LAN・CAFÉ

だより



October 2017

2017年10月号

NHK テレビの「ニュースで英会話」講師の鳥飼玖美子先生が豊橋に来られます。  
誰でも自由に参加して聴くことができます。

第5回愛知大学語学教育研究室公開講演会

# 多文化共生の為の 外国語教育とは

日時

2017年10月14日(土)

15時~17時(受付開始14時30分)

会場 愛知大学豊橋キャンパス 6号館 610教室

とりかい くみこ

講師 鳥飼 玖美子氏 立教大学名誉教授 NHK「ニュースで英会話」監修・テレビ講師

世界では反グローバルの動きが活発になり、それは各国それぞれの言語や文化を尊重する動きにも繋がります。結果として世界は多文化多言語社会への流れが強くなり、どのように共生するかは大きな課題となります。国外に留まらず、国内においても外国出身の住民が増加し、地域における多文化共生も必須となっています。

そのような多文化多言語共生に不可欠なのは異文化コミュニケーション能力です。

本講演では、異文化コミュニケーション能力という視点から、複言語主義とCEFR(欧州言語共通参照枠)の理念を参考に、英語一辺倒、数値による成果主義が顕著な日本の外国語教育について再考します。

言語を学ぶとはどういうことか。言語を教えるとはどういうことか。国際共通語として機能している英語を教えるにあたり、英米文化を教えるのか、それとも個別言語にとらわれない異文化コミュニケーションの視点から指導するので、教育内容は異なってきます。外国語を学ぶことは異文化への窓であると同時に、他者性との格闘であることを踏まえ、今後の外国語教育のあり方を考えたいと思います。

## Profile

- ◆ 所属 立教大学名誉教授 現在、内閣府政府広報アドバイザー、国際文化学会常任理事
- ◆ 専門分野 言語コミュニケーション論、英語教育論、通訳翻訳学
- ◆ 略歴 東洋英和女学院高等部在学中にAFS生として米国ニュージャージー州に留学。上智大学外国語学部イスパニア語学科卒業。コロンビア大学大学院修士課程修了(MA in TESOL)、サウセプトン大学大学院人文学研究科博士課程修了(Ph.D.)立教大学教授、立教大学大学院異文化コミュニケーション研究科初代委員長、立教大学特任教授、東京大学大学院教育学研究科学校教育高度化専攻客員教授、国立国語研究所客員教授等を歴任。現在、内閣府政府広報アドバイザー、国際文化学会常任理事、NHK「ニュースで英会話」監修およびテレビ講師を務める。
- ◆ 著書 「話すための英語力」(講談社現代新書2017)、「本物の英語力」(講談社現代新書2016)、「英語教育論争から考える」(みすず書房2014)、「一貫連携英語教育をどう構築するか:道具としての英語観を超えて」(編著、東信堂2014)



愛知大学  
AICHI UNIVERSITY

聴講  
無料

事前申込  
不要

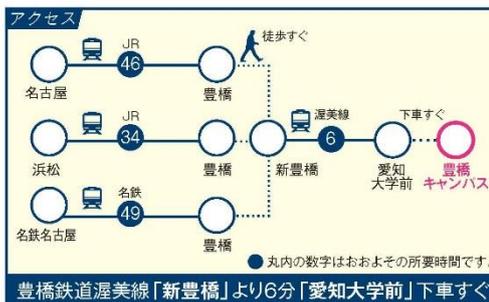
〒441-8522 愛知県豊橋市町畑町1-1

お問い合わせ 豊橋語学教育研究室

TEL:0532-47-4170 FAX:0532-47-4183

主催 愛知大学語学教育研究室(名古屋・豊橋)  
<http://taweb.aichi-u.ac.jp/tgoken/>

共催 愛知大学言語学談話会



第1回 Language Café 特別版が開催されます。  
気軽に参加してください。



2017年

10月28日(土) 11:00-12:30

3号館1階 ランゲージセンター

### First-Generation Asian Americans:

#### My Identity (アジア系アメリカ人という私のアイデンティティ)

Farrah will discuss what it was like growing up as a first-generation Pakistani-American in Washington D.C, and how it has shaped her experience living in Japan.

(パキスタン系アメリカ人として、ワシントンD.C.に生まれ育った Farrah Hasnain氏が、その経験が在日外国人としての現在にどのように影響しているかを語る。)

※英語による発表と質疑応答



Farrah Hasnain氏

Farrah Hasnain is a fourth-year assistant language teacher(ALT) with JET Program. She is from Washington D.C. USA. Her research interests include English education in Japanese high schools and ethnography of immigrant and minority communities in Japan and the US.

Farrah Hasnain氏は Japan Exchange and Teaching (JET) Program のALT (アシスタント・ランゲージ・ティーチャー)として4年間務めている。日本の高校英語教育、日米の少数民族や移民コミュニティに関心を持つ。米国ワシントンD.C.出身。

お問い合わせ

豊橋語学教育研究室  
内線1400

# 三浦孝 山中哲夫 ジョイントコンサート

ランゲージ・カフェ特別版「英語の歌、フランス語の歌」

11月2日（木）3限（13:20 - 14:50）

於 3号館ランゲージ・カフェ



**中尾** 今日は、来月2日に行われる三浦孝 山中哲夫 ジョイントコンサート「英語の歌、フランス語の歌」のご案内をいたしたいと思います。愛大豊橋に授業で歌われる先生が二名ほどいらっしゃるとうわさを聞きつけて、ご両名に白羽の矢を立てて実現した、豊橋キャンパス始まって以来の画期的なイベントです。三浦先生はカントリーを主に歌っておいでということですが…。

**三浦** はい。ブラザーズ・フォーの曲を中心にずっと歌ってきました。カントリーということで、中西部をはじめとするディープなアメリカを描いた曲目であり、そこには、大自然、故郷というテーマが見られます。

**中尾** 今回、先生の方から Home というテーマを出されましたので、いろいろこのグループの曲を見てみたのですが、その中で、ニューオーリンズのホームのことをうたったものがあったので、真っ先に取り上げさせていただきます。

**三浦** どうして、また、ニューオーリンズなんですか？

**中尾** ニューオーリンズをはじめとするルイジアナは、旧フランスの植民地で、今回のテーマにひっかかってくるかもしれないと思ったからです。アメリカにしては、少し疲れたような、貧困やどうしようもなさがある、シャンソンの世界と通じるところがある。

**三浦** それはあまりカントリー的とは言えないんですが、ニューオーリンズはブルース発祥の地です。

**中尾** ただ、少年はそこへ帰ってくるわけですね。その他の元気のよいカントリーソング同様に、**Rising Sun** というのはアイロニーですか？

**三浦** Sin and misery とあるようにスラムの一角にある朝日の当たる家です。アメリカ人にとっては Home は

とても大切に、心のよりどころです。

**中尾** 今回、この曲に対しては、L' étranger (異邦人) という曲をぶつけてみたんですが、フランスの場合、都会に出たら戻らない。そこで、都会人の孤独をまとい、群衆のひとりとなって、見知らぬ人と行きずりの恋に身を任せる。そんな孤独な歌が L' étranger です。

**三浦** 長い歌ですね。

**中尾** 歌うというよりは、語るという感じの強い曲です。律儀に韻を踏んでいて、古風な歌です。

**三浦** 救いようもなく暗い歌ですね。

**中尾** そういってしまえば元も子もないわけですが、2番目の歌 La vie en rose はその裏返しのようなもので、ここでは愛の喜びが歌われます。この歌からわかるように、フランスでは幸福はバラ色(ピンク)であらわされるのですが、ブラザーズ・フォーの有名な曲に Seven Daffodils というのがあって、Daffodils は、白いものもありますが、seven golden daffodils とあるように黄金色になっています。大邸宅も買えないし、土地も持っていないという具合に始まる歌詞を見ると、この黄金色というのがよくわかる気がします。

**三浦** まあ、ピアフの歌のように恋愛至上主義ではなく、ある意味リアリストの一面が覗いているんだと思います。ブラザーズ・フォーの歌には、社会的な広がりがあります。そして何よりも、自然の香りがします。The Green Leaves of Summer なんかをみればわかるのですが、それが郷愁と結びついている。我々日本人の感覚とも合致したものになっています。

**中尾** 確かに、シャンソンに描かれる「愛」にはある種の人工性が付きまといます。まあ、それが「芸」なのだと言ってしまえば身もふたもないわけですが、受け入れられにくいと言えばそうだと思います。

**三浦** 最後に Take Me Home, Country Roads を選んでいますが、これはどうしてですか？

**中尾** もちろん、先生の持ち歌のリストにあったということも大きいのですが、今までの流れの中で、自然とということをテーマとした場合、どのような対照が英語の歌とフランス語の歌との間に浮かび上がってくるのだろうかと考えたわけです。

**三浦** なるほど。

**中尾** 今の季節、シャンソンの Les feuilles mortes は外せないとして、都会のちまちました自然と対比できるようなカントリーソングは何かと考えた場合、まあ、第一候補になるだろうということです。自然を描くことは、シャンソンには苦手なのだという当たり前のことに気づいたというわけです。

2017年10月

LANGUAGE・CAFÉ 5限の部 プログラム

日	月	火	水	木	金	土
1	2 <b>EC</b> Study Skills  Daniel Devolin	3 <b>CF</b> (経歴について) インタビューする  Régis Olivero	4 <b>EC</b> Songs  Daniel Devolin	5	6 <b>EC</b> How to use Examples  Simon Sanada	7
8	9 <b>EC</b> Reading for Fun  Daniel Devolin	10 <b>CF</b> 道を訊く 案内する  Régis Olivero	11 <b>EC</b> Poems  Daniel Devolin	12	13 <b>EC</b> Sample Presentation  Simon Sanada	14
15	16 <b>EC</b> The Arts  Daniel Devolin	17 <b>CF</b> 道を訊く 案内する  Régis Olivero	18 <b>EC</b> Movies  Daniel Devolin	19	20 <b>EC</b> Student led presentation and discussion  Simon Sanada	21
22	23 <b>EC</b> The News  Daniel Devolin	24 <b>CF</b> 市場で/お店で買 い物をする  Régis Olivero	25 <b>EC</b> Books  Daniel Devolin	26	27 <b>EC</b> Student led presentation and discussion  Simon Sanada	28 <b>LS</b> Multicultural And Multilingual Identities (多文化・多言 語・アイデンテ ィティを考 える)
29	30 <b>EC</b> October Festivals And Holidays  Daniel Devolin	31 <b>CF</b> 市場で/お店で買 い物をする  Régis Olivero	<p><b>EC=English Café CF=Café français</b></p> <p><b>LS=Language Café Special</b></p> <p>プログラムは変更することがあります。</p>			

LANGUAGE・CAFÉ 昼休みの部 : **English Café** 月・火・水・金 **中文茶座** 火 **Café français** 金

参加教員: Peter/Daniel/Michael/David  
Simon/Kuniyoshi

張 筱平 Olivero

LAN・CAFÉ だより 2017年10月号(第13号)

WEB版 URL:

<http://taweb.aichi-u.ac.jp/tgoken/kikanshi.html>

2017年9月25日発行

発行: 愛知大学豊橋語学教育研究室

〒441-8522 豊橋市町畑町 1-1

TEL: (0532) 47-4170 FAX: (0532) 47-4184

URL: <http://taweb.aichi-u.ac.jp/tgoken>